

令和5年度 学校評価結果（概要版）

★全体として

ほとんどの項目で4点満点中3点以上（「よくあてはまる」～「だいたいあてはまる」）の評価でした。以下、評価平均（2.5点）に近く、課題のある項目についてのみ、その概要と次年度の改善の方向性について記載します。

★概要と改善の方向性（評価が2点台だったもの）

○自己肯定感や他者理解

- ・「お子さんは自分の良さに気づいている」（評価：2.88）

→児童アンケートの「自分や友達のよさに気づき、学級や学校をよりよくしようと努力している」の評価平均は3.30であり、決して低いとは言えません。今後も引き続き、児童のよさやがんばりを学級通信等で保護者に伝え、家庭でもお子さんのがんばりを賞賛していただけるよう努めていきます。

○自律的態度

- ・「お子さんは周囲に流されずに物事の善し悪しを判断している」（評価：2.92）

→児童アンケートの「人に迷惑をかけずに、ルールを守って生活している」の評価平均は3.32です。子どもにとって家庭は安らぎの場であり、時には甘えも出てしまいます。そのため、お子さんへの期待もあって、保護者の方の評価が厳しくなりがちです。お子さんの自律的な態度をさらに育てるため、約束やルールを守れた際にしっかり褒めることも大切にしていなければと思います。

○読書習慣

- ・「お子さんは家で読書をしている」（評価：2.16）

→児童アンケートの「読書は好き」の評価平均は3.00であり、学校図書室を利用する児童も徐々に増えつつあります。今後も図書委員会等の取組を活性化させ、読書に対する興味関心を高めていきます。

○家庭での取組

- ・家族での対話や団らん等、ふれあう時間の確保（評価：2.81）

- ・ゲームやインターネット使用のルール決め（評価：2.97）

→家族が一緒に過ごす時間を意図的に設定し、お子さんとのふれあいや会話を通して、家庭内で積極的に取り組んでいただきたいと思います。

■学校評議員からのご意見

- ・考える力をつけるために、読書は有効である。社中学校では、朝読書をしていて、アニメ映像を見たことがきっかけになり、原作本を読んでいる中学生もいると聞いた。学校で読書の時間を保障する取組も必要ではないか。家から自分が読みたい本を持って来させ、読書の時間に読んだらどうか。
- ・あいさつは基本的なことである。子どもからだけでなく、地域の大人から積極的にあいさつをしていけかないといけない。
- ・自分を律するためにも5分前行動は大事である。「ノーチャイム制」をとっている米田小の取組は、時間を意識して行動する子どもを育てることにつながっている。
- ・小規模校の良さを最大限に活かした教育活動を今後も進めてほしい。ただし、大集団となる小中一貫校へのスムーズな接続にむけ、子どもに「たくまさ」や「しなやかさ」も身につけさせてほしい。